

世界糖尿病デー2014 JR 山手線車体広告の展開について

2014年11月11日
公益社団法人日本糖尿病協会

公益社団法人日本糖尿病協会（理事長：清野裕／関西電力病院院長）所在地：東京都千代田区）は、11月14日の世界糖尿病デーを含む11月10日(月)～23日(日)の14日間、東京都内を走るJR山手線の車体を利用して、糖尿病予防の啓発活動を実施します。



※写真はイメージ画像で、実際とは異なる場合があります

世界糖尿病デーは、国際連合が「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議」を2006年に採択したのを契機に公式に制定されました。決議採択を働きかけた国際糖尿病連合（IDF：International Diabetes Federation）は、ブルーサークルをシンボルマークとして、世界規模での啓発活動を展開しています。日本国内でも日本糖尿病協会と日本糖尿病学会が連携して、毎年11月14日を中心に、各地の著明な建造物をブルーにライトアップして世界糖尿病デーの認知度向上に努めています。

今年はそうしたライトアップに加えて、日本糖尿病協会では、大正富山医薬品株式会社の協力を得て、JR山手線の車両1編成を使い、日本の世界糖尿病デー公式ポスターのビジュアルを車体の両面に掲示（1車両あたり10～12枚）することになりました。

日本の糖尿病患者数は約950万人、予備群は約1,100万人と推計されています^(※)。前回の2007年調査と比較すると、患者数は60万人増加したものの、予備群は220万人減少しました。

PRESS RELEASE

成人の約5.1人に1人が糖尿病患者または予備群と言われていますが、最近の特徴として、糖尿病の発症が低年齢化し、20～30歳代の患者が増えていることが指摘されています。

このような背景のもと、日本糖尿病協会は、特に20～30歳代の若い就労世代への糖尿病啓発を目的に、今回の山手線での車両広告を企画しました。理事長の清野裕は、次のように述べています。

「若い世代の患者さんは、この先50年くらい治療が続きますが、初診で1年間治療を継続する人はわずか2割です。先の長い若い世代に糖尿病治療を受けない人が多いのは、とりわけ大きな問題です。この車両に乗ったことをきっかけに、ぜひ糖尿病に関心を持ち、正しい知識で予防や治療にあたっていただきたいと思います。」

日本糖尿病協会は、世界糖尿病デーをはじめ、様々な機会をとらえて、糖尿病の発症予防や進展抑制に関する啓発を行って参ります。

(※) 厚生労働省 平成24年「国民健康・栄養調査結果」

【「世界糖尿病デー啓発車両」運転概要】

期間：2014年11月10日（月）～11月23日（日）

※運転期間は予定であり、変更・中止となる場合があります

内容：全52編成中の1編成11両の車体外部に世界糖尿病デーポスターを掲示

(ご注意) 本件に関し、JR駅社員・乗務員へのお問い合わせはご遠慮ください。

世界糖尿病デー公式ポスター（作：片岡鶴太郎氏）



◇本件に関するお問い合わせ◇

公益社団法人日本糖尿病協会 担当：堀田

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725 email : hotta@nittokyo.or.jp